

令和6年度第3回南箕輪村持続可能な自治会検討委員会会議次第

令和6年10月1日（火）
午後7時から 役場講堂

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 住民からの意見共有【会議資料1】
4. 検討補助委員からの意見共有【会議資料2】
5. 課題の解決に向けての参考資料【会議資料3】
6. ワークショップ
第2回ワークショップまとめ【会議資料4】
自治会運営業務の課題整理と解決方法検討・発表 【会議資料5】
7. 次回の日程
日 時 11月26日（火） 午後7時
場 所 講堂
8. その他
9. 閉会

住民からの意見共有

元役場の職員なので、（役場の）中も外も知っているという立場から外側（地区側）から検討委員会のビデオを見た感想です。

区三役経験者です。区以外では自主防災組織の役員も5年以上連続して行っています。水利組合と営農組合も交互に役員が回ってきます。

役場の職員だったということもあり、常に地区の役員を何かしている立場から見ても、そもそもですが自治会設置の根拠が分かりません。

区の加入も強制力がないという説明の中で加入は任意としているのに、地区の中のこと（問題ごとや水路清掃まで）は村は区に言ってきます。区はどういう設置根拠があって活動をしているのでしょうか？

役員のなり手がいないのも当然の結果です。嫌なら区を抜ければ良いのですから。加入に強制力がないのですから。挙句に同じ人が役員にならざるをえない状況です。（そういう人が地区の中だけで5～6人はいます）

この検討委員会では区の組織だけを扱っているような雰囲気、自主防も営農組織も同じことが言えます。自治会だけの問題ではなく、村が設置を求めるすべての地区組織に共通した話ではないでしょうか？

やっと〇〇が終わったと思ったら次は××になってくれと言われ、それをしている中で△△も頼まれる。

最初はやる気があってやっていたけど、毎年役員が回ってきていけば数年たてばもうやる気もなくなってきました。

持続可能な自治会と言いますが、そもそも区を持続する必要性とはなんなのでしょうか？区の目的をはっきりとし、そこをしっかりと周知していく必要があるのではないのでしょうか。

追伸：中込区のデジタル回覧板の話がありましたが、回覧板などは安否確認の意味も含んでいるのではないのでしょうか？私の組で昨年、組長が区費・組費の集金に回るのが大変だという議論になった時に、安否確認という意味もあるのではという話になり、そのとおりだと思いましたが、回覧板にも同じことがいえるのではないかと思いますし、ある意味、安否確認できることこそが隣近所同士のつながりのある区に入る数少ないメリットのひとつだと思います。

もし、デジタル回覧板を行うのであれば、確認したというレスポンスができるような仕組みをつくる必要があるかと思います。

第2回持続可能な自治会検討委員会 検討補助委員意見共有

①役員の選出やなり手不足

若い方が役員になれば、柔軟性のある人材が確保出来そう。だが、仕事や子育てで時間に余裕の無い家庭が多く、負担になると思うと簡単には言えない。例えばですが、半年任期にする事は可能なのでしょうか？

また、役員の方々に多くのメリットがあれば、成り手が増えるかもしれませんので、仕事量に見合った対価をお願いしたいです。

②行事、イベントの整理や活用

地域の担い手を育てるという面からも、是非、家族で参加できるこども向けのイベントを増やして欲しい。

清掃等の作業は必要最低限にして欲しい。併せて活動時間の見直しも必要。

③区行政の運用方法

時代に合った運用が出来るように、デジタル化を早急に進めて頂きたい。(まずは回覧板)

④住民の意識づけ

地域コミュニティに関心を持つ為にも、まずは楽しい行事を行い、足を運んでもらう事が重要。神子柴区の、かま塾がとても良い例になっていると思う。

第2回の動画から

▶役員のなり手不足

人口減少と過疎化、高齢化を計算に入れ、そもそも必要な役職の数はいくつなのか？減らせるだけ減らすことは必要ではないかと思います。

▶区や組が存在する必要性

想定外に「組外・区外」になったが、村に住むうえで困ることはない。集金がなく、役がなく、作業も行事もなく、多くの家庭からはむしろ楽になったという声が聞かれる。隣組がすべて解散し、村の中に区があるだけになると、何がどう困るのかを住民に理解しないと、必要性の理解は難しい。

▶性別差 女性が「参加できるように」？

年齢層に関わらず、女性で役員をやりたいという住民は稀少。やってもいい、まで広げたとしてもほばいないと思う。

保育園の保護者会から小中学校の生徒会長、村会議員まで、女性が表に出ることがこれだけ少な

い村で、区の役員や組長を「やりたい」人がいる想定は難しい。やりたくない人が大半では。

▶区長の仕事は必要なのか？

多くの区民が区長の仕事を具体的に知らない。仕事内容を知らずにその仕事を引き受ける人はいない。区長のしている仕事がどんなことで、どれだけ必要性が高いのか（どれだけ省けるものがあるのかも含め）開示する必要があるのでは？

▶役につくことのメリット＝人間関係を構築できる（人脈）

必要性を感じている人はどのくらい？Z世代はもちろん、その親世代まで、現代はなるべく親しい関わり合いを持ちたくない、避けたい人が圧倒的に多いと感じる。人間関係はなるべく薄く遠くしておきたい世代はますます増える。人間関係や人脈をメリットとして、役員をしてくれる人がどれくらいいるのか？

▶やりたくない・関わりあいたくない前提

この流れが持続可能な自治体を大きく阻害していると同時に、村だけではなく国や世界全体の流れだと考える。

▶区の目的とは

区や組に入っているとできること、できないことが明文化できるならすべきでは。また村の中に区が存在しなくてはならない理由も住民全体に周知すべきではないかと考える。

第2回会議動画を見て 感想

▷ 移住者、若年層の声を聞くと、その多くが

「村に住めればいい。付き合いたい近所とだけ付き合いたい。組織に縛られるのは困る」「強制されるのは納得できない。不要な人付き合いは持ちたくない。」

と考えている様子がわかります。加入する・しないではなく、そもそも最初から隣組という組織自体がなければいい、という思いが大きいです。

この流れを大きく転換するには、まず現在区や組に加入していない人たちが、なぜ非加入なのかを分析して、その原因ごとに対策をしないと非効率になるのではと思います。加入したくなくていない若年層や移住者と、加入していたけど役員不足などのやむを得ない理由で非加入にならざるをえなかった人たちでは、対応が異なるからです。

更に、加入したくない思いの非加入者のほうが多い場合は、

「区や組が存在している意味」「全廃されたらどのような困りごとが起きうるか」

を明確にして、正確な危機感を持ってもらうことが最優先かと思います。プライベートな近所づきあいは面倒でも、責任があるとか、やらないと困るとか、自分も含めた住民みんなのために必要なんだと理解すれば、加入したり、役員を受けたりする人の数は増える可能性が、今よりはあると考えます。

加入金について

全区で同額がよいと思います。同額であれば加入を勧める区の役員も話を進めやすくなります。私の区は村の中でも高いほうだと思いますが、全額を特別会計に積立し将来に備えています。沢尻区さんのようにゼロは厳しいですが、統一となれば従うと思います。

区費について

これも全区で同額がよいと思います。各区ごとに事情はことなりますが話合うことはできると思います。規模が小さいために必然的に高くなっている区は統合などを検討されてはどうでしょうか。

若い世帯の中には不公平なのに何も対策を打たないことに対して不満や失望を感じるとおっしゃる方もいます。

組の再編について

必要だと思います。区が運営できる範囲で減組できないでしょうか。組数が減れば構成員は増え、役員の数も減ります。

もう一つ、きっかけが大切です。再編が必要ならば、区ごとに単独で進めるのではなく、村なり区長会なりどなたかに音頭をとっていただいて「全村一斉に検討しましょう」という方向性を打ち出せないでしょうか。その後押しがあれば区も動きやすくなると思います。

課題の解決に向けての参考資料

○ガイドライン(ヒント集)作成のイメージ

「悩みごと」に対して「ヒント」を考え記載していく

[例]悩みごと①

高齢者の退区希望者が増えている。どう対策したらいい？

ヒント①

賦役や役員を免除する

役員の定年制を設ける

[例]悩みごと②

組の世帯数が少なく、役員がすぐ回ってきて大変。どう改善すればいい？

ヒント②

組の再編はせずに、役だけ合同で回す

○すでに始まっている区取り組み

・北殿区の事例紹介

北殿区では、区の中に持続可能な区の運営を目指す委員会を設立したいと考えています。今後、交通部や防犯部、衛生部の立会いがなくなると区の役員も変わるため、区の運営について新たに検討しています。その中で、区長の業務の質と量に関して、区長が担う必要のない業務を棚卸ししています。今後、区民に対して、事務局を設置し、報酬を支払って区の運営を行ってよいか提案する予定です。検討委員会の議論の結果をもとに、区長の業務負担を軽減し、必要のない業務については事務局を設けて運営をする方針です。また、区の役員は1年ごとに交代しますが、事務局は3年または5年単位で運営し、区長の支援を行う人を育てていきたいと思っています。

		組織・区民関係			
		役・役員	行事・イベント	運営	区民認識
課題	ワークショップ	役員のなり手担い手不足 役員になる人がいない ・世帯の小規模化 ・共働き世帯の増加 ・単身世帯の増加 ・定年延長65歳→70歳、再雇用が原因 区長のなり手がいない ・仕事が多すぎる ・高齢だと大変 三役の役員のなり手がみつからない。特に代理と区長 区役員選考、三役なり手不足 ・地区における負担軽減(事務等を担う人材の確保ができていない)(予算不足) ・役目の明確化(その他) 地区の役員選出 女性役員の増員化	【行事】 イベントの標準化 区のイベントが多すぎる 【公民館活動の上手な使い方】 公民館活動 ・行事が年7回以上あり準備等時間が大 ・村主催の参加行事の選手選抜が大変 ・新規加入者へのアプローチがうまくいっていない 公民館が担うコミュニティの役割は大きい 公民館役員重要 いろいろな集まりが高齢化でなくなった	【運営】 区運営に必要な議決は総会しかないので、もう少し運営できる組織作りが必要。 箕輪町、伊那市の状況、他の区の状況も開示 ■評議員会(ex3年任期)→本来の役割がはたされていない、役割を理解していない 【ライフスタイルに応じた自治会】 核家族に対応した自治会のあり方 自治会の意義や目的がよくわからない(やっている人もよくわかっていない) 個人の生き方や価値観の多様化 清掃作業者の不足(高齢化による)	【住環境】 住環境住む人の意識付け 先住、移住、年齢による意識の差(生活感、家族感等) 個々の環境、アンバランス
		【役員の選出やなり手不足】 ・若い方が役員になれば、柔軟性のある人材が確保できそう。だが、仕事や子育てで時間に余裕のない家庭が多く、負担になると思うと簡単には言えない。 ・役につくことのメリット＝人間関係を構築できる(人脈) 必要性を感じている人はどのくらい？Z世代、その親世代まで、現代はなるべく親しい関わり合いを持ちたくない、避けたい人が圧倒的に多い。人間関係はなるべく遠く遠くしておきたい世代はますます増える。 人間関係や人脈をメリットとして、役員をしてくれる人がどれくらいいいるのか？ 【性別差】女性が「参加できるように」？ ・年齢層にかかわらず、女性で役員をやりたいという住民は稀少。やってもいい、まで広げたとしてもほばいないと思う。 ・保育園の保護者会から小中学校の生徒会長、村会議員まで、女性が表に出ることがこれだけ少ない村で、区の役員や組長を「やりたい」人がいる想定は難しい。やりたくない人が大半では。 【区長のなり手】 区長の仕事は必要なのか？ 多くの区民が区長の仕事を具体的に知らない。	【清掃活動について】 ・清掃活動などの開始時間が早い 朝の5時、6時からの活動が多く、早くて困っている 7時くらいにしてもらえると思う ・ごみゼロ運動や河川清掃は本当に必要か？ 〈ごみゼロ運動〉 目立つごみはあまり無い。組全員が出席するほどの必要性を感じない。 〈河川清掃〉 事前の草刈りを行っているためか、当日はきれいな状態。半分ほど散歩になってしまっている。 ・役をやりながら、さらに区民全員参加の作業もあり負担に感じる	【自治会の持続】 やりたくない・関わり合いたくない前提 この流れが持続可能な自治体を大きく阻害していると同時に、村だけでなく国や世界全体の流れだと考える。	
解決案	ワークショップ	役職の定年制 今までの経験を役割として活かしてもらう 区長になると良いことがあるというPRができるという 若い方がアイデアも馬力もある 免除の基準が難しい(高齢でも元氣) 役員へ女性登用の推進 区役員の長期的育成及び公平な役割分担(負担)、制度の確立 区役員の選出は候補者のキャリアの開示が必要だと思うが個人情報のため難しい →村のサポートが要る 区、組が期待する役割を全うできない方々の受け皿 できる役割は残す 役員の仕事を明確に 役員をした後に感じる意義 ■リスト作成(6月頃から選考委)＝履歴 →何年後ならできるか先に確認する→心構え、覚悟ができる。準備期間があるとい い ■レールをつくる(ステップアップ、人間関係づくり)覚悟の醸成 ・長期的スケジュールで勉強しながら歴任する(△定年延長がネックになる) ■事務局を設置する 区のアナウンス窓口にする 資料づくり専属等(田畑は有給で実施) △事務局が経験を積んで偉くなくなってしまうかも ・判断は区長にすること！ ■選考する組織、役割をつくる ■区長等対価をしっかりと ■役職のなり手不足 ・定年「年齢」 →健康状態に左右される。元氣は人は高齢でもできる。 →介護度、独居は免除→ルール化(単身、核家族) ・役員の選出(地区によって違う)→負担軽減 ・役の仕事内容を示す(内容の意味がわからない) →仕事のボリューム、内容を見える化 →役をやったよかったことを見える化 →区の基準書をつくる(村のガイドラインの中でやる) 良い部分を入れる、「経験者の声」、メリットデメリットを載せる いろいろな地区のやり方を共有 ・自治会の目的を明確に(行政と自治会の住み分け) →住みやすさ、共有化、オープン化 →若い世代はエビデンスが必要 ・作業量の軽減 →やり方と内容を見える化 →区担当職員を配置 →「標準化」 ・行事の整理 →勇志を募ることも必要 →必要な行事、イベントの回数の目安 →「サポーター」をつくる ・若い世代がどう参加できるか →機能、役割、利益を求める社会環境 ・そもそも内容を知った上、で関わりを持ちたくない人もいる →基本やりたくないは前提 ・本当の目的を持つ →楽しいことに引き込む。運営側ではなく参加側でも	【行事】 区に入らないと行けない行事、魅力ある行事をつくる 標準を村でつくれないうか？ ■日、時期を決める(ごみゼロ等) ■全員が出なくていい行事を分ける ■子どもをターゲットにして大人につなげる→お客さんにならないような参加方法の工夫 ■自主防災と一緒にイベント等 ■子どもから大人まで年齢問わず参加できる ■好きな人が何年も続けられる仕組み→運営側 ■子育て世代を中心にベテランがアドバイザー→内容を時代に合わせて更新する ■区を横断して一緒に開催 ■楽しいことが目的 ■女性が参画できるコミュニティ(なり手) 【公民館活動の上手な使い方】 新規加入者へのアプローチ→村のサポ 公民館を上手に使う	【運営】 スピーディーな運営が必要 ■役、会議の役割と権限を明確にする 会議→区で議論が必要 役割→責任を持たせる ■公民館を中心に交流を図る 【ライフスタイルに応じた自治会】 作業量、仕事量を減らす。現役世代がやりたくなる仕組み 作業をかわりにする事務員 ◎「自治会を続けていくことが大事」 【行政と自治会の分担、ルール化】 ・行政がやること ・自治会がやること ・見直し、無駄なものを見直す	地元を知ることが大切 地区の散歩コース→地区の歴史、地区を知る ■ポイントを獲得できる散歩コース→地元を知る ■ex「大泉を知る会」コロナで休止。来るのはお年寄りだけ ・“知る”→若い人が興味のありそうなことを工夫する ・何かと絡めて拡大する 孫と一緒に参加できる 子どもとスポーツ、しめ縄づくり 技術、農業を教わる
		【役員の選出やなり手不足】 ・例えば、半年任期にすることは可能か？ ・役員の方々に多くのメリットが有れば、成り手が増えるかもしれないので、仕事量に見合った対価をお願いしたい。 ・人口減少と過疎化、高齢化を計算に入れ、そもそも必要な役職の数はいくつなのか？減らせるだけ減らすことが必要ではないか。 【区長のなり手】 仕事内容を知らずにその仕事を引き受ける人はいない。区長のしている仕事でどんなことで、どれだけ必要性が高いのか(どれだけ省けるものがあるのかも含め)開示する必要があるのでは？	今後、不必要な作業を少しでも減らしていくことで、「組」に加入しても負担にならない」、「時代に合わせて内容も変化している」というイメージをつくっていけるのではないか。 【行事、イベントの整理や活用】 ・地域の担い手を育てるという面からも、是非、家族で参加できる子ども向けのイベントを増やしてほしい。 ・清掃等の作業は必要最低限にしてほしい。併せて活動時間の見直しも必要。		【住民の意識づけ】 地域コミュニティに関心を持つためにも、まずは楽しい行事を行い、足を運んでもらう事が重要。神子楽区のかま塾がとても良い例になっていると思う。

		組織・区民関係			
		区外・組外対策	高齢者	組再編	加入金・区費
課題	ワークショップ	【区加入者減】 入区を希望する人が少ない ・役をやりたいくない ・メール、LINEで入区のデメリットが流れている 自治会加入率が低い、低くなっていく ・メリットを感じない ・役をやりたいくない ・区費が高い 新規移住者の急増による区未加入者（組未加入者）の増大 大きな区ほど誰が住んでいるかわからない 新規移住者とのつながりを培う場や機会が全くもてない 区、組に入る人が少なくなっている。防災、衛生といった日常のことに問題が起きる可能性がある 加入者と未加入者の間に生じる気持ち悪い違和感 未加入者対策 ・区、組への加入促進 ・アプローチ（コミュニティの存在意義の明確、周知） ・加入金が負担 ・高齢者の負担（例：定年制） ・区、組加入のメリット、デメリット - 区に入るメリットを伝えられない 区、組に入るメリット、デメリットが新しい人にはわからないかも - 加入した場合メリットがない（不公平感） 若い人達は、時間とお金がネック	【区から出てしまう】 高齢化による退区者が増えてきている 組の高齢化に伴い、組の人数が減少。組の維持に苦勞をしている 高齢者世帯の増加等に伴う賦役参加等が難しい世帯の増加（退組、退区。役員もできない） 入る人より出ていく人が多い 区内道路清掃等、高齢化で負担が大きい	組の人数にバラつきがある 人数の少ない組と多い組ができています 役員の頻度に対する不公平感 ・輪番制のため組構成員の人数差による不公平感 組の世帯数に差があり、役等不公平 区域よってのまとまりが異なる（広いため、新旧） アパート住民との連帯感が乏しい 組によるルール、しきたりの違い 区加入者の急増等による組構成件数の偏りの存在。 隣組組織の再編への方向性が見えない 組編成 ・新規転入者の未加入 ・高齢化で退会者増 ・適正人員？ ・防災組織の核としての位置付が不明確 ・改編、組変えが難しい	加入金・区費 区費の不公平感。 二世帯住宅は一戸分、単身者も一戸分 区費の標準化 加入金はゼロにしたい。 【対価、インセンティブ】 ・事務員、役場窓口、議員 ・経済的不公平 ・経済的負担、公民館補修等区民に負担が高い ・区に加入していない人→負担しなくていい ・あるべき姿がみえない！ ・集金（寄付金）
	検討補助委員意見	【区や組が存在する必要性】 ・想定外に「組外・区外」になったが、村に住むうえで困ることはない。集金がなく、役がなく、作業も行事もなく、多くの家庭からはむしろ楽になったという声が聞かれる。→隣組がすべて解散し、村の中に区があるだけになると、何がどう困るのかを住民が理解しないと、必要性の理解は難しい。 ・移住者、若年層の声から「村に住めればいい。付き合いたい近所とだけ付き合いたい。組織に縛られるのは困る」「強制されるのは納得できない。不要な人付き合いは持ちたくない。」と考えている様子がわかる。加入する・しないではなく、そもそも最初から隣組という組織自体がなければいい、という思いが大きい。	【高齢者の係について】 ＜日奉奉仕団＞ 妻が要介護のため、自分が引き受けた ・炎天下の行進は高齢の身には厳しい ・炊き出し訓練は、妻の世話がありできない ＜公民館係＞ ・納涼祭 - 会場準備はできるが、以降は妻の世話がありできない ・敬老会 - 準備やお年寄りの接待を、後期高齢者の自分（敬老会に招待される側）がすることに複雑な思いあり 組の方々に役を免除してもらうのものはばかられる 組から外れることも考えさせられる		【区費について】 若い世帯の中には不公平なのに何も対策を打たないことに対して不満や失望を感じるという声もある。
解決案	ワークショップ	加入率を上げる目標を定める 強気に加入する仕掛け 区に入らないデメリットを明確にする → ルールとして決める ↓ プラスの方向のやり方で加入者を増やす！若い人は検討してもらう 地域住民にとってどんなメリットがあるのか具体的に提示が必要 防災、防犯、衛生情報（メリット） 人のつながりを増やしている イベントによる交流活動 村のアナウンスを強化 【自治会の目的】 目的を明確に ・村が全てを管理することは無理 ・区に任せることで、自由度（早さ）はたかくなる（予算） ・細かいところまで目が届かない→地域コミュニティ、災害の時 ・幸せに安心安全な生活 ・自治会がないと個人負担増 ・自助、共助。一人では暮らせない ↑ 【若い人たちへの情報を見える化】 ・村のHPを見ない →インプレッションを稼げる媒体 →「紙」 ◎「見せ方」村報のトップページ（表紙） 「インパクト」興味を持たせる 「表現」紙→デジタル ・デジタルの回覧だから見る。 - 地縁…地区内の情報は欲しい		少ない組を多い組が支援する 組は別で役割だけ合併する	組長会でも決めた（北殿） 沢尻、北殿、塩ノ井、大芝は加入金ゼロ
	検討補助委員意見	【自治会に入るメリット・デメリット】 自治会に入るとどのようなメリットがあるか未加入世帯に呼びかける行動が必要 ・R5年度、若い世代から見た自治会に入るデメリットや意見が出なかった ・検討委員の議論も、ずっと地域に住んでいる検討委員かつ自治会員で行われてきた（高齢者ばかり） ↓ 若い世代はどのようなデメリットを感じているか？ 今年度は、南箕輪村に移住された方、30代、未加入の若い世代の意見を聞いた ◎村の将来を担う若い世代の意見も尊重しながら双方で軟着陸するのがよい （メリット） ・イベントや係活動を通じて区民の皆さんとの関わりが増えた ・公民館係となり、区民の球技大会（ポッチャ）に参加 - 子ども・夫婦ともに楽しめ、また来年も参加したいと思えるイベントだった。特にお子さんのいる家庭に、このようなイベントを通して地域の方との交流の大きさを体感してもらいたい。 【非加入者対策】 加入・非加入で差をつける 例）加入者のみに村商品券を配る 乳幼児のいる家庭におむつ券を配る など 何か加入しようと思えるきっかけを作るのも大事 【区や組が存在する必要性】 ・区や組に入っているとできること、できないことが明文化できるならすべきでは。 ・村の中に区が存在しなくてはならない理由を住民全体に周知すべきでは。 ・現在区や組に加入していない人たちが、なぜ非加入なのかを分析し、その原因ごとに対策をする。（加入しにくくてしていない若年層や移住者と、加入していたけど役員不足などのやむを得ない理由で非加入にならざるをえなかった人たちでは、対応が異なるから） さらに、加入したくない思いの非加入者のほうが多い場合は、「区や組が存在している意味」「全廃されたらどのような困り事が起きるか」を明確にし、正確な危機感を持ってもらうことが最優先。 →プライベートな近所つきあいは面倒でも、責任がある、やらないと困る、自分も含めた住民みんなのために必要なんだと理解すれば、加入者や役員を受ける人の数が今よりは増える可能性がある。	【高齢者の係について】 村か区の規則で、係の免除対象者について規定すれば、組から脱会しなくとも現状維持が図られるのではないかと	組の再編は必要だと思う。 ・区が運営できる範囲で減組できないか。組数が減れば構成員は増え、役員の数は減る。 ・きっかけが大切。再編が必要ならば、区ごとに単独で進めるのではなく、村なり区長会なりどなたかが音頭をとって「全村一斉に検討しましょう」という方向性を打ち出せないか。後押しがあれば区も動きやすくなる。	【加入金について】 全区で同額がよいと思う。 ・同額であれば加入を勧める区の役員も話を進めやすくなる。 ・私の区は村の中でも高いほうだと思うが、全額を特別会計に積立し将来に備えている。沢尻区のようにゼロは厳しいが、統一となれば従うと思う。 【区費について】 全区で同額がよいと思う。 ・各区ごとに事情は異なるが話し合いはできる。規模が小さいために必然的に高くなっている区は統合などを検討してはどうか。

		組織・区民関係		地域認識と防災		その他
		組内関係性の希薄化	関心・人材の掘り起こし	防災計画・防犯	消防団組織	デジタル化
課題	ワークショップ	関係性の希薄化 ・行事の参加者が少ない ・行事を魅力ある行事へ ・若者の参画		【自主防災】 固定化。見えなくなっている。 自主防災会の維持 人の入れ替わりが少ない	消防団員不足	デジタル化が進んでいない。回覧、会議 → アナログからデジタルへ進んでいない。村からの助成が必要
	検討補助委員 意見					
解決案	ワークショップ	負担が少なくて交流できる場。 防災、防犯、衛生情報（メリット）		防災、防犯、衛生情報（メリット）		同じシステム（会計）、会計用のパソコン オンライン（zoom）web上で回覧→中込 ↑ まずは意識調査
	検討補助委員 意見					【区行政の運用方法】 時代に合った運用ができるように、デジタル化を早急に進めていただきたい。（まずは回覧板）

令和6年度 第3回 持続可能な自治会検討委員会会議 プログラム

作業プログラム	時間	プログラム内容
ワークショップ開会		2 グループ
① ワークショップの説明	5 分	本日のワークショップの内容について説明します。 第2回の成果を振り返ります。
② 自治会運営業務について考える	75 分	本日の持続可能な自治会検討委員会は、「自治会運営業務」について第1回、第2回検討結果をもとに自治会運営の課題を整理し、課題解決方法を探ります。 ・区外、組外対策 ・高齢者 ・組再編 ・加入金、区費 ・組内関係性の希薄化 ・防災計画、防犯 ・消防団組織 について、各区で取り組んでいる解決方法を共有するとともに、課題解決のヒントとなる手法について話し合います。 ※課題やヒントについては、前回成果を参考にし、グループ内で検討してください。
③ グループ発表	10 分	本日の成果について、グループごとに発表します。 5分以内で発表してください。
④ 閉会	計 90 分	

※このプログラムは進行に応じて変更することがあります

組織・区民関係													
	役・役員	行事・イベント	運営	区民認識	区外・組外対策	高齢者	組再編	加入金・区費	組織・区民関係	地域認識と防災	消防団組織	デジタル化	その他
課題	・役が大変 ・役員(係)の負担 ・仕事が忙しくて両立できない	【作業、行事】 道路や公民館などの作業	【区、組のルール】 ・昭和時代の区、組のルールが時代に合っていない →働き方、家族構成も色々(高齢者、未婚、シンママ、非正規雇用等) ・区や組によって規約(区費、行事等)の違いが大きい ・区、組によるルールが異なる ・時代に合わせたルール改正が必要 ・役員の負担(区や組によって異なる) ・公民館使用料等、村内で統一すべき。利用しやすさ ・家が近だけで入らなければいけないコミュニティは疑問 ・自治会の見える化 【情報発信】 情報がちゃんと伝わっていない 【神社】□ 神社の修理費は区や組の負担なのか？ 氏子でもないのに神社の色々がまわってくる 神社を維持するにはお金が必要	【価値観、ライフスタイル】 ・家族構成の変化□ →核家族化、少数化□ ・価値観、慣習、文化の違う人の増加□ ・結婚しない人の増加 【意識】 ・誰かのためにという自己満足 ・皆でやると仲良くなれる ・自分が好きな人たちだけで集まりたい ・コミュニティが嫌いな人は放置？ ・地域の子どものコミュニティだった入りたい ・加入しない人は共助意識がない ・区、組のかかわりについて理解していない。しようとしていない ・メリットと感じる人、デメリットと感じる人の相反する考え	【区、組加入】 ・区、組入ることに「負担」大変 →理解不足？→説明不足。区が何のためにあるのか メリット、デメリット。そもそも？ ・メリットが見えない。説明できない ・区、組に入っているメリットを感じない ・メリットよりも不公平感をなくすこと ・まだまだ謎が多い(調べない)のに支払い →組が必要か？ ・抜ける人が増えてしまいそう ・区は必要だけど、組を抜ける 【加入、未加入の不公平感】 ・差別(負担、不公平感)→加入、未加入の不公平感 ・差別は大きくなると問題			【区費、組費】 ・区、組費の負担 ・区、組費等金銭面の負担 ・区、組費が高い ・金銭的負担の軽減 ・南箕輪村の全ての現状が何の負担もなくあるのではない(この理解がない)	かわりたくない	【支援】 ・災害時の公助はあてにできない →ここを共助で補うしかない ・東日本大震災の時、地域のつながりの重要性 ・公的援助はどのくらい？ →意外と支援してもらえない			・自治会の進め方が時代に合っていない ・想定よりもよかった。(何が？)でも不満がある →時代に応じて変化する ・人がつくってきた景観を守り、育ててきたのは行政ではなく地区
	・経験者(区役等)としては、そんなに負担感ない ・人が増えれば役の負担が少なくなるのでは ・区役の負担 →役を減らす、役場に窓口を設ける	【作業、行事】 ・地区の作業はやりたい人で！ →まっくん除雪隊みたいに。「子どものため」ならがんばれる ・作業→アウトソーシングできるものもあるのでは？ ・子育て、働き世代のため行事参加できない→負担、行事の軽減を考える ・広報誌配布や衛生係等「組」でやってもらうことがなくなっていく	【自治会の目的】 ・情報の伝達がいち早く行われる ・地域の安全性が向上→資産価値が上がる ・区行政の透明化 ・組は必要か→自治会の中心的な役割として必要 ・自治会は何のためにあるのか意思疎通が必要(メリットわからない等) ・自治会の目的、メリットをアナウンスする 【区、組のルール】 ・時代に合わせた区や組のルール、ガイドライン ・お葬式等、生活改善、何もしない ・冠婚葬祭はそれぞれのお付き合いの中だけにしましょう ・行事の軽減、ガイドライン、ヒント集で明記 【区、組の仕組み】 ・一度全員入れる ・好きな人、つてのある人、やりたい人がずっとできる仕組み ・レクリエーション、イベントの充実 ・スキルの向上(しめ縄、野菜づくり) ・公民館活動に力を入れる ・サークル活動の助成 ・公民館、サークル等活動の充実 【会議】 ・組の定期的な集まりが負担 →減らす。行事のみにする ・時間の負担 →会議を減らす、ガイドライン作成 ・区の運営(行事等)若い人に任せる 【情報発信】 自治会のあり方を発信し続ける 【地域の実状】□ 区長が地域の実状を知る 【自治会の目的】 ・情報の伝達がいち早く行われる ・地域の安全性が向上→資産価値が上がる ・区行政の透明化 ・組は必要か→自治会の中心的な役割として必要 ・自治会は何のためにあるのか意思疎通が必要(メリットわからない等) ・自治会の目的、メリットをアナウンスする	【区、組加入】 ・加入のメリット伝える ・公助(有事の際の)を明確にして加入・未加入の違いを際立たせる ・加入するメリット、デメリットが不明→示す ・加入のメリット 温泉券、ジェラート券の活用 区加入者にはお祭りの飲食引き換えチケットを渡す。未加入者はお金を払って購入する ・区の加入方法、退会方法をオープンにする ・加入・未加入の手続きをわかりやすくし、オープンにする →加入・未加入を自由に ・オープンにする手法→ネットの普及 ・区、組未加入の説明の仕方 ・説明するものを残す。データで残る(中込) ・どういう手続き →区、組へ入るため。抜きたいと考えている →自治会の役割。その存在意義が見えない ・役場窓口の強化 ・入る人と入らない人の差別化をするのではなく、全世帯が入る仕組みをつくるべき ・相方向のコミュニケーションを ・強制的⇄調和、調整、融通性。自由に自治会に入ったりやめたりできる 【加入、未加入の不公平感】 ・差別ではなく区別は必要 ・組外者の協力金を要請する ・未加入の場合は金銭的に負担してもら ・未加入の人は協力金を区費より高くする ・戸建世帯は強制加入できないか？ ・村で加入の条例化。義務付けできないか ・区や組に入らない人への負担を増やす →加入者に有意性のある施策		【区、組の仕組み】 ・単位の見直しはありか。世帯数の標準化 →区の決定機関への議員選出のため ・組再編 →自主防災班と一緒にしては ・組がいらなくなる？ →問題の根源 ・やり方を変えれば組がなくてもコミュニケーションはとれる ・組をなくす →区の中でできる人、向いている人、やりたい人が動く ・組が意見集約の場になっている ・少人数の組織が便利 ・組の件数を大きくする →役割が減る	【区費、組費】 ・区費の負担。使い道細分化 ・なぜ集金するか、理由を説明する ・お金を細分化してきちんと集金する →選択肢を与える(毎月、集金) ・区費、修繕費が負担 →廃止する？→活動できない →まとめて徴収ではなく、細分化する。 ・区費を細分化する →ただし事務処理が大変になる ・負担金の意味が理解されていない →自由意思にできるか ・区費、組費負担 →使途明確 ・区、組費問題 →適正価格は？必要経費の見える化 ・区費の明細を示して選択できるよう ・区ごとの比較。予算をオープンにする ・村のHPに区のページを作り、各区の予算を見えるようにしたらどうか ・村で発信していく。色々なツールを使って試す ・金銭の負担 →会費を減らす。修繕費負担の軽減 ・必要なお金を精査する ・区の運営費を少なくする →役職の報酬を少なくする ・年会費安くなる？0円ではまわらない？ ・集金を常会でしている区もある ・組費への負担 →年によって集める年と集めない年 ・なるべく負担のないよう、行事の有無によって減増しています(我が組では) ・負担金を減らす ・ポイント制にして商品やサービスと交換できる ・区費一律にして人数に応じて分配しては(足りない部分は村が補填) ・区費は村民一律 →平等に還元する ・不公平感をなくす ・募金という集金をやる。やり方を変える(区へお願いせず、募金団体が自分でやればいい) ・募金は人の善意のもの。真に必要なものなら予算をして組むべきでは ・分納の希望もある ・公共サービスの料金を項目ごとに村で統一 ・集金方法の改善 Paypay等、振込み ・集金の労力は？事務員がやる ・対価をあげて仕事にする ・作業のアウトソーシング	冠婚葬祭のかかわりをなくす	メリットのアナウンス。見える化				
解決案													